

○金井直樹議長 第6号議案について質疑に入ります。

質疑はありませんか。(5番 大野保司議員「5番」と言う)

5番 大野議員。

◆5番(大野保司議員) 第6号議案「中核市指定の申出について」、これまで市長と何回かやりとりをしてきたこともあり、最終的に越谷市の方向を決めるということだと思いますので、そういった観点で3点質問させていただきたいと思います。

1点目ですが、職員の増員に伴うサービスの拡充について伺います。先日、全協で中核市に係る移譲事務の概要というので、詳細に事務の準備を説明いただいたわけですが、これを見ますと中核市移行に伴いましては越谷市の配置人数としては69人、一方県で削減される人数は18人、財政的には、これまで足りなくなった分は交付税で措置されるということではございましたが、職員について見ますと越谷市としては何人ふえようと予算の範囲内かもしれませんが、県と市の関係で考えますと、県は18人しか削減できないのにもかかわらず、市としては69人、差し引き51人ふえてしまうと、こういう状況です。

さらに、保健所の分は、これを差っ引きで見ますと18人、保健所政令市の分として11人のせてありまして、そうしますと保健所政令市になる分を除いた中核市の事務の分と言うと22人の増と、こういうことなのです。市長は、これまでも権限移譲に伴って、身近なことは身近でやると、そういうことで市民のサービスの拡充になるのだというふうに言われていたわけですが、職員の面で見ると越谷市の財政というよりも、行政全体としては年間数億円ぐらいの人件費がふえてくるというようなことになってくると思いますので、そういうものを補って余りあるサービス拡充というのは、どういった点にあるのか、何度もやっている話ですが、さらに一步踏み込んで市長のお考えを聞かせていただきたいと思います。これが1点目です。

2点目は、中核市になって、市長は市民が誇れる越谷というのを標榜してありまして、その一つの大きな目玉として中核市移行というのがあるのだろうというふうに施政方針なんかを聞いていても確認できるわけですが、市民が誇れる越谷という場合に、中核市に一步ステップアップすることで、権限がふえてサービスがふえるというのがありますけれども、いろいろ例えはどうかはわかりませんが、政令市、中核市、特例市というのがあってワンランク1つ上がるということですから、単に権限、サービスの拡充ということではなくて、越谷市としての描く夢、実現できる市政というようなものもワンランクアップすべきではないかと思うのです。市長がよく標榜されている、水と緑と太陽に恵まれた安全・安心・快適都市ですが、そういう基礎的な部分というのは、当然基礎的自治体として持っているわけですが、さらにもう一步進んだ部分、それが一つ市長の言葉で言えば市民が誇れる越谷かなというふうに思うのです。

中核市になると、さらに一步そういったものが具体的に実現できるのではないかなというふうに思うわけですが、ここに「うんちく埼玉」という本がございまして、これちょっと

漫画なのですけれども、埼玉が誇らしいということで、埼玉県のパラダイム部分を各ご当地のことを漫画仕立てにしてわかりやすく描いてある本、この間越谷市内のある本屋さんで見つけて、これはぜひ市長にもお見せしたいと思ひまして購入したわけなのですけれども、これで見ますと、市長がよく言うさいたま市を挟んで西に川越、東に越谷というのであれば、やはり越谷のこともこの埼玉県のうんちくで少しは語ってほしいと思うわけです。今回の答弁の中でも、越谷の知名度は全国的に足りていないと、まだまだ知名度を伸ばしていかなければいけないというふうに市長おっしゃっておりますけれども、埼玉県の中においても他人からの評価では、なかなかまだまだ足りないところがあるのではないかなと思ひますので、そういう中核市になって越谷はどう変わるのか、それを市長のお言葉で少し教えていただきたい。

それから、3点目ですが、これは非常に実務的ですが、中核市というのは今42市ございまして、目指しているのは6市あるわけです。中核市になると、中核市サミットというのを毎年やっておりまして、これ調べてみると今まで18回やっているのです。今42市に6足して48市、越谷市がなったところには、すぐということではないのですけれども、あと30市ぐらい残っていますから、その範囲内、30年後に中核市サミットというのをやれば、越谷市ももっと何かいろいろ基盤できるのかもしれませんが、今の現状だと越谷市内でどうやってそういう大きな会議を実施するのか、これはなかなか難しいのではないかなと思ひます。すぐに開催されることはないと思ひますけれども、中核市になる以上、そういう準備はできているのだと、本来であれば堂々とそういうことも含めた上で中核市になる、名実ともにといた場合に、名前が先なのか、身が先なのかと、ちゃんとしたインフラも整備された上で中核市になるのか、それともとりあえず権限をそろえて中核市になって、後はやりながらそろえていくということなのか、そういうことで一つ代表的なテーマだと思ひますので、この中核市サミット、越谷市であれば仮に実施するのだしたらどういふお考えなのか、以上3点、質疑させていただきたいと思ひます。

○金井直樹議長 市長の答弁を求めます。
〔高橋 努市長登壇〕

◎高橋努市長 ただいまのご質問にお答えいたします。

まず冒頭、住民自治というのは法律に定められております、住民自治、行政というのは。行政は定められているけれども、市民の皆さんは、やはりできるだけ身近で、できるだけ直接サービスを受けられるようにしてほしいというのは、大方の市民の皆さんの願ひではないでしょうか。私は、そのことを素直に受けとめて、人口33万人にも達しました。なる資格を有するところから、そういう市民の皆さんの願ひに応えていきたいということで、私は皆さんにお願ひをし、これまで取り組んできたわけでございます。そういう大局的なことをぜひ展望していただきまして、ご理解をいただきたいなということが、まず1、2、3の前にお願ひを申し上げたいと、このように思ひます。

職員の増については、これまでも全員協議会だとかの機会をいただきまして、説明をしまひました。県がカウントしている、越谷市に、中核市に移譲した結果としての人員減と、越谷市が受けて対応する場合の人員減、県は越谷市だけを外しただけで、そっくりイ

コールということにはならないわけです。越谷市の市民に関する業務についてはこれだけで、県は県の、いわゆる42市ありますから、市だけでも。そのうちのカウントをして、県は算出した。しかし、越谷市は市独自でやるには、やはりそういう県は業務は残っているわけですが、越谷市はそっくり対応してやっていかなければいけないということから、一覧表でお示しのように県のカウントと越谷市のカウントは、こう違うのですよということでご説明を申し上げたわけでございます。改めて、この辺については企画部長から説明をさせていただきます。

それから、市民が誇れる越谷、知名度アップを図るとというのが、数字にあらわせない大きなプラスだと、市民の皆さんに誇りを持って、この越谷に住んでいてよかったと、こういうふうな利便性と行政サービスができるということは、数字ではあらわせない大きなメリットがあるだろうと私は大いに期待をいたしております。また、市民の皆さんにそういう誇りを持っていただきたい。それによって、幾ばくかの勇気と活力が越谷市民の皆さんにいただけるものと、こう信じて頑張っていきたいというふうに思っておりますので、ぜひこの点も各議員の皆さんにもご理解をいただきたいということで、ご質問に合わせて私は皆さんにお願いを申し上げる次第でございます。

それから、中核市サミットの件については、これは越谷市が即なるということでありませんし、私はまだ具体的なサミットの開催云々については理解はしておりませんが、これはお互いに理解し合った中で、どこでどう開催するかということは、その都度決めているわけございまして、それはいずれは越谷市が開催することになるだろうと思います。近々なった後、数年のうちにやってくれと言え、それは喜んで私はやるぐらいの誇りを持って、仲間として対応していきたいというふうに思っておりますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。以上です。

○金井直樹議長 次に、企画部長。
〔立澤 悟企画部長登壇〕

◎立澤悟企画部長 それでは、1つ目の質問の職員増に伴いますサービス拡充の中で、実際に県が示した削減の数と越谷市が示した数が差異があるということでの、この辺の理由を含めた説明をということでございます。

実際に議員さんのほうにお配りさせていただきました概要の中にもその数字が入っております。実際には、例えば廃棄物処理を行う施設の中で、これは県で施設の設置許可ですとか、あるいは収集運搬業務を行う事務ですとか、あるいはパトロールの実施ですとか、現地確認ですとか立ち入りですとか、こういった業務を今行っているわけございしますが、これを市が実施体制をつくるということになりますと、今県では、この表にもあるのですけれども、県の積算では越谷市分の人工は0.27人分ということになるわけですが、越谷市の場合に配置を積算していくと、基本的には10人の配置が必要だということで、産廃一つとっても実際に県の想定した数字では仕事が回らないということで、先ほど市長のほうからもご説明申し上げましたが、この県の削減分というのは、県における越谷市分の24年の実績処理件数を全県の分の越谷市のシェアということでの数値を出した数字でございますので、この数値だけで仕事が回るものではないということでございます。

また、69人という数字は、平成26年と27年の増分の数字でございまして、実際には私どものほうで、一昨年議会で88名の定数増を議会で議決いただきました。その中には、37名分の中核市の人数が含まれております。今現在、中核市に移行するに当たっての人数の積算は、さらに全体としては78名という積算でございまして、先ほどの議員さんの69という数字は、その一段目を捉えた数字ということでご理解をいただきたいと思っております。以上でございます。

○金井直樹議長 ほかに質疑はありませんか。(5番 大野保司議員「はい、5番」と言う)

5番 大野議員。

◆5番(大野保司議員) ご答弁ありがとうございました。

まず、権限のところでございますが、県でやっていたものを市におろせば、やはり人数が必要だというのは、これは私も当然だと思います。あとは、そのプラスアルファでふえた分だけ、市長のおっしゃるように市民サービスが、県がやるよりもふえると、何か単に近いところでやるという、距離的な問題しかないのだとすると、これは非常に寂しい話で、より丁寧にとか、より迅速にとか、よりスピーディーに、そういったことが展開されていくのだろうなというふうには期待したいのです。このふえる人数を確認してみますと、先ほど保健所を除くと22人と申しましたが、その内訳で見ると民生行政が8人なのです。それから、環境行政が10人、そして教育が4人で、さらにその内訳を見ますと、環境行政については産廃の10人です。それから、教育行政については、これは教職員の研修用の4人ということですので、産廃業者の許認可を市民サービスの向上で身近な行政のアップというふうには、普通の市民はなかなか捉えないと思うのです。かなり専門的な分野で、これは玉生議員なんかも先ほど質問されて、そこで答えられているので、それは置きまして、では社会福祉の分野でどういうふうなサービスが向上するのかと、民生行政の分野で見ると民間児童福祉施設の設置認可、それから身体障害者手帳の交付、それから地方社会福祉審議会の設置、これ3名です。母子寡婦福祉資金の貸し付けが1名、こんな形になっておまして、市民から見ると身近なサービスが増進と、拡充するというようなことと言うと、単に身近なところで書類を出してくれるのだけれども、本当にサービス向上するのかなと、人数面から見るとそういうようなことが見えてくるのです。ぜひともその部分は、もし中核市に移行するのであれば、単に仕事が県から市に移ったのではなくて、プラスアルファの越谷市でやったことのメリットを市民が確認できるように、ぜひしていただきたいと思っておりますので、そういった観点から事務改善どう進められるのか、教えていただきたい。

それから、2点目でございますが、観光というか、市民が誇れる越谷をつくるということで、中核市になることが重要な要素だというふうには市長はお答えしましたが、今回代表質問の中でも各先輩から、すばらしい越谷市の未来に向けた質問もあったやに思うのですけれども、例えばグロスアラカワハピネスとか、それから工業系、流通系の土地利用をふやすとか、それから新たな都市構造をつくりかえていくとか、将来の越谷をつくりかえていく大きなお話もあったかと思うのですけれども、それに対する市長の答弁は、残念ながら今回のところまだ検討にとどまっているのかなと思うのです。本来であれば、鶏か卵かと言われれば、もう少し絵を描いて、中核市になると権限だけではなくてこんな未来もあるのですよ

と、こうしていただけるともっとよろしいのかなと思うのですが、そういったことを踏まえて、さらに市の市政運営をどういうふうの中核市になって変えていきたいのか、市長のご存念を聞かせていただきたいと思います。

以上、2点です。

○金井直樹議長 市長の答弁を求めます。

〔高橋 努市長登壇〕

◎高橋努市長 お答えいたします。

中核市になるということの行政サービスが2,000項目ちょっとあります。この行政について、単に距離の問題だけではないわけです。効率的、効果的、迅速性、こういったものが身近なところでサービスができるということは、先ほども言ったように市民の皆さんにとっては、どれだけ利便性、迅速性、効果的に行政が入ってくるかということではなかなかはかり知れないものがあると、私は大いに期待をしております。これは、これから2,000項目からの概要について、逐次市民の皆さんと関係者の皆さんがかかわってまいりますから、そのときにどういう評価をいただけるか、私は大いに期待をしていきたいと思います。そういう中で、ちっとも変わらないではないかと、こういうようなことが仮にあるとすれば、それは速やかに改善をして、やはり越谷市であってよかったと、できてよかったと、こう言われるような対策をしっかりと組んでいくことを今からお約束をしたいと思います。

それから、中核市の未来像、土地利用の問題等は中核市とは直接かかわりありませんから、これは市が直接個々の行政事務についての権限を持って、市民サービスの向上、生活向上に結びつけていくということでございますので、これは人によってさまざまな期待が湧いてくると思います。私もあえて西の中核市、川越市と東の中核市、越谷ということで、いわばよい意味で大いに競り合っていきたいと、こう思っております。川越は歴史がありますから、川越のように競り合っていくにはまだまだ非常に難しい面が多々あることは承知しております。しかし、市民の皆さん、あるいは市内で工場経営やっている方、商店会の皆さん、こういった方の大きなプライド、誇りを持ってやっていけると、またやっていただきたいと、こういう期待感が、私は大きなものがあると思います。何がどうこうということは、その中から具体的に生まれてきますし、越谷市もしっかりとそういうもので生まれていくようなことを率先して取り組んでいっていただきたい、特に越谷ナンバーなんかは最たるもので、非常にタイミング的に、本当に私はうれしく受けとめております。これを契機といたしまして、全国に越谷の名を広めていきたいと、私もまた率直に申し上げておりますが、北海道、九州のほうへ行って、越谷のナンバー見たけれども、越谷ってどこだいと言われる心配もなくはありません。ですから、その次は、越谷というのはこういうところにあるのですよと、こういう自治体ですよと、こう言えるような、誇りを持てるような観光資源なり物産資源なりなんなりを大いに盛り上げていきたいと、こんな希望も持ってこれからまたさらに行政に取り組んでいきたいと、こう思っておりますので、ぜひご理解を賜りたいと思います。以上です。

○金井直樹議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕